

学則の変更の趣旨等を記載した書類

1 学則変更（収容定員変更）の内容

大妻女子大学短期大学部（以下「本学」という。）は、下記のとおり、令和2年度から収容定員変更を行う。

なお、本件は、短期大学の収容定員の総数の増加を伴わない変更であり、また、「地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律（平成30年法律第37号）」第13条第1号に定める、特定地域内学部等収容定員の減少と併せて特定地域内学部収容定員を増加させる場合に該当する変更である。

【現行】

学科・専攻		入学定員	収容定員
家政科	家政専攻	90	180
	生活総合ビジネス専攻	70	140
	食物栄養専攻	110	220
国文科		40	80
英文科		40	80
計		350	700



【令和2年度から】

学科・専攻		入学定員	収容定員	現行からの増減
家政科	家政専攻	90	180	0
	生活総合ビジネス専攻	70	140	0
	食物栄養専攻	100	200	△20
国文科		45	90	10
英文科		45	90	10
計		350	700	0

2 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学家政科食物栄養専攻は、深い専門知識や理論、高い技術を習得し、「食」と「健康」の幅広い知識と確かな実践力を持つ栄養士の育成を目指して、家政科第一部を専攻分離して昭和43年度に千代田キャンパス（東京都千代田区）に開設した学科・専攻であり、以来、およそ50年の長きにわたり、社会に貢献し、活躍できる栄養士を輩出している。

さて、入学定員削減を行う家政科食物栄養専攻においては、18歳人口激減の中で入学定員の確保と教育の質の維持の両立を目指して平成27年度に入学定員削減を行ったが、それ以降の過去4年間、資料1「入学志願状況等」のとおり志願倍率が2倍を切るところまで低下しており、定員割れが生じている。そして、学力の低い学生が入学することにより教育の質の維持を脅かす

ことになるため、これ以上合格者数を増やせない状況となっている。

以上のことから、入学定員の確保と教育の質の維持・向上を両立させ、社会に貢献できる優れた栄養士を輩出するため、上表のとおり、家政科食物栄養専攻の入学定員削減を行うこととした。

本学国文科及び英文科は、それぞれで取り扱う言語・文化の探求を通して豊かな知識と教養を身につけ、国際化する現代社会において、他者との関わりの中で自己を生かし、貢献する人材の育成を目指して、昭和42年度に千代田キャンパスに開設した学科であり、以来、およそ50年の長きにわたり、社会に貢献し、活躍できる人材を多方面に輩出している。

さて、入学定員増加を行う国文科及び英文科においては、恒常的な定員割れを解消するために平成25、27年度に大幅な入学定員削減を行い、加えて、専門教育科目の精選・体系化等を行い、PRを強化した結果、まだ緒に就いたばかりではあるが資料1「入学志願状況等」のとおり志願倍率が好転し、定員割れが解消されている。そして、今後は是正しなければならないが、入学定員を超える入学者を出している。

以上のことから、入学定員超過を是正しつつ社会の期待に応えるため、上表のとおり、国文科及び英文科の入学定員増加を行うこととした。

加えて、本件は、前述の法第13条第1号に定める、特定地域内学部等収容定員の減少と併せて特定地域内学部収容定員を増加させる場合に該当するため、家政科食物栄養専攻の入学定員削減を国文科及び英文科の入学定員増加に充当することとした。

3 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(1) 教育課程の変更内容

本学では、教育の質的変換に向けて、さまざまな施策に取り組んでいる。教育課程では、「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「入学者受入れの方針」を明確化し、そのもとで、専門科目について平成27年度までに開設科目の精選を行い、体系化を行ったところである。また、グローバル化の進展に伴い、本学の英語学習の環境を整備し、英語教育をより充実・強化するため、平成29年度に英語教育研究所を設置し、効率的な学びを可能にする習熟度別クラス編成、各英語検定試験の受験サポート、英語学習相談のためのオフィスアワーの設置などの取り組みを行っている。さらに、国文科及び英文科関係では、主として文芸に関わる草稿・テキスト等の基礎的研究及びその成果の文学研究・文学教育への応用についての総合的研究を行う草稿・テキスト研究所を、大妻女子大学文学部とともに平成11年度に設置し、その研究成果を授業に活かしている。今後も以上の取り組みの充実・発展を目指していくこととしており、収容定員変更前と同等以上の内容を担保することができると思う。

(2) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

〈教育方法〉

社会的・職業的自立が求められている時代背景に即して、実社会のニーズであるコミュニケーション能力や主体性などの基礎的能力の育成を図る必要があることから、演習科目や体験型授業を積極的に取り入れている。

また、新入生対象の必修科目として「大妻教養講座」を開講し、建学の精神、大学生活の過ごし方等を解説し、学習の動機付けを行っている。

〈履修指導方法〉

ガイダンス、オフィスアワー、クラス担任・副担任制を活用してきめ細やかな履修指導・学習指導を行っている。

また、授業の予習・復習、自学自習の学習成果を高めるため、授業支援システム「manaba」を活用し、授業担当者と学生が自由に双方向のインターネットを利用した学びができる環境を提供している。

今回の収容定員変更に合わせて教育方法、履修指導方法を変更するといったことは行わないが、以上の取り組みを継続して行うことにしており、収容定員変更前と同等以上の内容を担保することができると思う。

(3) 教員組織の変更内容

今回の収容定員変更を行った場合の、短期大学設置基準に定める「学科の種類及び規模に応じ定める専任教員数」、「短期大学全体の入学定員に応じ定める専任教員数」については、現在の専任教員数のままでもすでに基準を上回っている。

なお、FD活動や教員評価制度を通じて各教員の意識・能力を高め、また、ティーチング・アシスタント等を積極的に活用するなどの取り組みを継続して行うことにしており、教育の質の維持・向上に資するものとする。

(4) 大学全体の施設・設備の変更内容

千代田キャンパスでは再開発プロジェクトが完了し、平成25年のE棟を皮切りに、平成26年にF棟とJ棟、さらには、平成28年に講義室、ゼミ室のほか情報処理実習室・自習室、研究室等を備えた地上8階、地下2階のH棟、平成29年度に2つのアリーナ、学生のためのアクティブラーニングスペース、講義室、ゼミ室等を備えた地上7階、地下2階のG棟が完成した。先進的な設備を備えた講義室、ゼミ室、実習室等が数多く配置され、学習環境が格段に改善されている。

今回の収容定員変更を行っても、短期大学全体としての収容定員の変更はないため、十分な施設・設備は備えられている。

資料1

入学志願状況等

学部等名	項目	27年度	28年度	29年度	30年度
家政科 食物栄養専攻	入学定員	110	110	110	110
	志願者数	382	260	217	196
	受験者数	362	240	194	183
	合格者数	180	165	173	171
	入学者数	112	111	103	96
	志願倍率	3.47	2.36	1.97	1.78
	入学定員超過率	1.01	1.00	0.93	0.87
国文科	入学定員	40	40	40	40
	志願者数	143	124	123	85
	受験者数	138	122	118	83
	合格者数	77	58	57	73
	入学者数	53	46	51	43
	志願倍率	3.57	3.10	3.07	2.12
	入学定員超過率	1.32	1.15	1.27	1.07
英文科	入学定員	40	40	40	40
	志願者数	148	102	126	141
	受験者数	145	96	120	137
	合格者数	99	78	78	76
	入学者数	49	46	47	48
	志願倍率	3.70	2.55	3.15	3.52
	入学定員超過率	1.22	1.15	1.17	1.20